

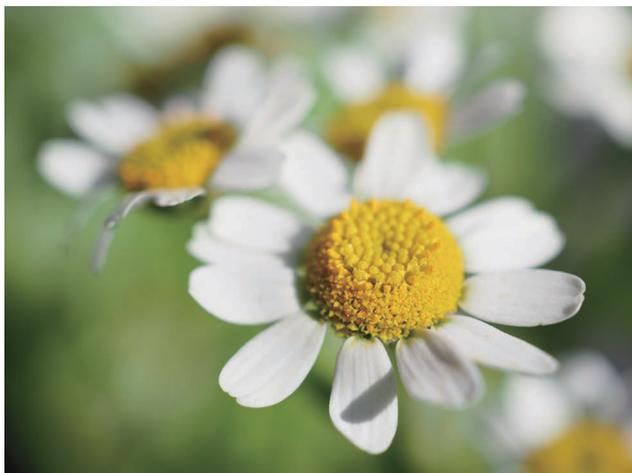


撮影モード A (絞り優先)
絞り F5.6
シャッター速度 1/1000秒
露出補正 ±0
ISO感度 200
WB 日陰
レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 14-42mm F3.5-5.6 EZ
焦点距離 14mm

POINT 1 卓越した描写性能を誇る最高画質

約 1,605 万画素の 4/3 型 Live MOS センサーを搭載し、高解像度とハイダイナミックレンジによる高画質を実現。さらに最新の画像処理エンジン True Pic VIIIにより、暗いシーンでも高い描写力と精緻な解像力を発揮し、階調豊かでなめらかな美しい写真を撮影できる。

撮影モード A (絞り優先)
絞り F3.5
シャッター速度 1/1600秒
露出補正 +0.7
ISO感度 200
WB オート
レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 30mm F3.5 Macro
焦点距離 30mm



POINT 2 180度回転するモニターをタッチして自分撮りも思いどおりに



撮影モード A (絞り優先) 絞り F1.8 シャッター速度 1/250秒
露出補正 +1.0 ISO感度 200 WB オート
レンズ M.ZUIKO DIGITAL 25mm F1.8
焦点距離 25mm

小型・軽量で自分撮りに最適。180度可動式モニターで、仕上がりを確認しながらスマートな自分撮りができる。大型・高精細なタッチパネルで、直感的なピント合わせが可能に。いつでも、どんなシーンでも、思い通りの自分撮りが楽しめる。

POINT 3

スマートフォンと接続して広がる楽しみ方

専用のスマートフォンアプリ OLYMPUS Image Share (Ol.Share) を使えば、スマートフォンと Wi-Fi/Bluetooth 接続が可能。スマートフォンからカメラをコントロールしてリモート撮影ができるほか、カメラの電源を切っても画像のバックグラウンド転送が可能。とっておきの1枚が撮れたらすぐに SNS でシェアできる。



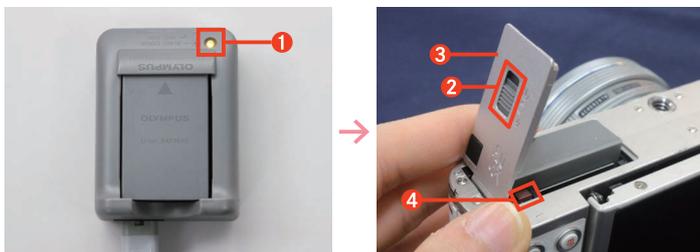
撮影モード A (絞り優先) 絞り F1.8 シャッター速度 1/200秒
露出補正 +1.3 ISO感度 200 WB オート
レンズ M.ZUIKO DIGITAL 25mm F1.8 焦点距離 25mm

撮影前に カメラの準備をしよう

KEYWORD 電池/レンズ装着/記録メディア/日時設定/画質モード/
モニター表示

まずは**電池をフル充電**し、カメラに装填しよう。次に、本体に**レンズを取り付け**、**記録メディア**を差し込み、電源をON。日時、撮影データの画質などを設定すれば、撮影準備は完了だ。

1 電池を充電してセットする



画質モードにはRAW (→P160) ①とJPEG ②があり、RAWとJPEGの画像を同時に記録するJPEG+RAW ③も選べる。JPEGの表示は前が画像サイズ④、後ろが圧縮率⑤を表している。

2 レンズを取り付ける



まずはカメラの電源がOFFになっていることを確認する。レンズのリアキャップとカメラのボディキャップをそれぞれ反時計回り①に回して外す。



カメラのレンズ合わせマーク②にレンズの取り付け指標③を合わせ、レンズを差し込む。カチッと音がするまで時計回り④に回す。レンズを取り外すときは、レンズ取り外しボタン⑤を押しながら、反時計回り⑥にレンズを回す。取り付け、取り外しの際は、カメラとレンズの内部に触ったり、ホコリが入ったりしないように注意しよう。

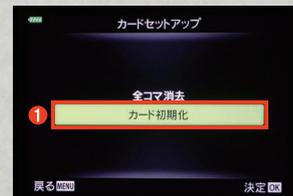
3 記録メディアをセットする



E-PL10で使用できる記録メディアは、SD規格の市販のSD、SDHC、SDXCカード。電源OFFの状態ですべて電池/カードカバーを開き、カバー裏のイラストを確認して、正しい方向でカードを入れる。カチッと音がしてカードをセットできたら、電池/カードカバーを閉めて電池/カードカバーロックをスライドさせる。カードを取り出すときは、カードを軽く押しすとロックが外れて出てくる。

ONE POINT カード初期化

新しく購入したカードや他のカメラで使用したカードは、最初に初期化する。カードの書き込み処理能力や記録枚数など、最大限活かせるようになる。全ての画像が消去されるため、内容を確認してから実行しよう。P29の「全ての画像を一括消去する」の手順で「カード初期化」①を選択する。



応用撮影モードを 覚えよう

KEYWORD プログラム撮影 / 絞り優先撮影 /
シャッター優先撮影 / マニュアル撮影

E-PL10の撮影モードは、かんたん撮影モード (AUTO、SCN、AP、ART) と応用撮影モード (P、A、S、M) に分類される。ここでは、より積極的にカメラを操作して思い通りの写真表現を楽しめる応用撮影モードについて解説する。カメラに慣れてきたら挑戦してみよう。

1 応用撮影モードとは？



応用撮影モード

P (プログラム撮影)、**A (絞り優先撮影)**、**S (シャッター優先撮影)**、**M (マニュアル撮影)** が応用撮影モードだ。応用撮影モードでは、撮影者がシャッター速度、絞り値、露出補正值、ISO感度などを**撮影意図に合わせて自由に設定できる**。被写体の状況や、どんな表現をしたかによってモードを選ぼう。シャッター速度や絞り値によって変わる写真表現の仕組みを知れば、撮影がより楽しくなる。



撮影モード シャッター速度 絞り値 露出補正值

モニターの左下に現在の撮影モードが表示される。調整できる項目は緑色で表示される。撮影モードによって調整できる項目は異なる。

■各撮影モードの特徴

撮影モード	設定内容
P プログラム 撮影モード	カメラがシャッター速度と絞り値を自動で設定し、適正露出 (→P38) を得られる。プログラムシフトでシャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることもできる。シャッターチャンスに集中したいときなどに向いている。
A 絞り優先 撮影モード	撮影者が絞り値 (→P42) を決定し、カメラがシャッター速度を自動で設定する。ぼけを作ったり、画面全体にピントを合わせたりすることができる。奥行きを表現したいときなどに向いている。
S シャッター優先 撮影モード	撮影者がシャッター速度 (→P44) を決定し、カメラが絞り値を自動で設定する。被写体の一連の動きをぶらして写したり、一瞬の動きを止めて写したりすることができる。動きや躍動感を表現したいときなどに向いている。
M マニュアル 撮影モード	シャッター速度と絞り値の両方を撮影者が決定する。露出を固定して撮影したり、長時間露光 (→P46) で撮影したりすることができる。夜景や花火、光跡の撮影などに便利だ。

Pモードの詳細→P40



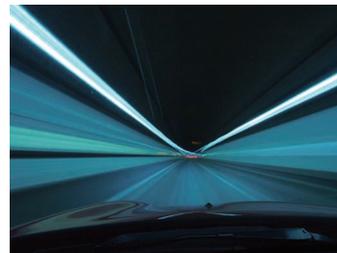
Sモードの詳細→P44



Aモードの詳細→P42



Mモードの詳細→P46



- 応用撮影モードは、P、A、S、Mの4種類。状況に応じて使い分ける。
- シャッター速度や絞り値などを撮影者が自由に設定することで、カメラが自動で設定するオートモードやシーンモードとはひと味違う、写真表現ができる。

アートフィルターで 写真を楽しもう

KEYWORD アートフィルター / 効果の追加

16種類のアートフィルターに、タイプ、効果の追加、露出補正やホワイトバランスをかけ合わせれば、自分だけの表現が楽しめる。各フィルターの特徴を知り、自分らしい表現をしよう。

1 ポップアート



彩度とコントラストが強くなりカラフルな仕上がりになる。タイプIではファインチューン(→P80)での微調整が可能。

タイプIは色鮮やかに、IIはコントラストがより強くシャドウ部が強調される。色の印象を強めたいときに向いている。色とりどりの酒瓶を色鮮やかに描写できた(タイプI)。

2 ファンタジックフォーカス



紗がかかったようなソフトフォーカスになり、写真全体がやさしいイメージになる。ファインチューンでの微調整が可能。

動物や人物を可愛らしく撮りたいときや、ロマンチックに表現したいときに向いている。ぼらの花束が光に溶け込むように、やわらかに描写できた。

3 デイドリーム



幼い頃に遊んだ記憶の中の光景のような、**淡い描写**の写真に仕上がる。



タイプIはブルー系でクールな印象になり、風景や人物に合う。IIはアンバー系で温かみを感じる仕上がりになり、雑貨や動物に合う。作例では全体がやわらかく青みがかり、エッフェル塔が引き立った(タイプI)。

4 ライトトーン



コントラストと彩度が抑えられ、色がやわらかい印象になる。色の濃い被写体の生々しさを抑えたいときに向いており、風景をやさしいトーンにまとめるのに効果的。影を目立たせずに、人物をきれいに撮るのにも向いている。



影が抑えられ、肌や髪の質感をやわらかくきれいに写すことができた。

マクロレンズを 使いこなそう

KEYWORD 等倍 / 最大撮影倍率 / 被写界深度 / ぼけ

マクロレンズの大きな特徴は、小さな被写体を大きく撮影できること。M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macroは等倍を超える1.25倍での撮影が可能。等倍とは撮影倍率を1:1(1倍)で撮影することで、被写体と同じ大きさの像がセンサーに写る。このレンズは被写体よりも大きな像をセンサーに写すことができる。最大撮影倍率が大きいレンズほど被写体を大きく写せる。

1 マクロレンズの活用ポイント

マクロレンズで直径2cm程度のコインを近くから撮影すると、画面いっぱいにとらえられ、迫力のある写真になる。M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macroは高速で静かなオートフォーカス駆動を実現するMSC機構により、マクロ撮影でも素早いピント合わせが可能だ。



撮影モード A (絞り優先) 絞り F5.6 シャッター速度 1/60秒
露出補正 ±0 ISO感度 3200 WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macro 焦点距離 30mm

2 マクロレンズを使って撮影する

マクロレンズは被写界深度(→P43)が浅く、背景をきれいにぼかすことができる。下の写真では、ミントの手前の葉にピントを合わせると、奥の葉の部分のピントが外れているのがわかる。よくぼけるため、全体的にピントを合わせるときは絞る必要がある。



撮影モード A (絞り優先) 絞り F3.5 シャッター速度 1/80秒
露出補正 +0.3 ISO感度 200 WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL ED 30mm F3.5 Macro 焦点距離 30mm

■こんな人におすすめ!

肉眼では見ることのできない、極小の世界をとらえたい人におすすめ。小さな被写体も、画面いっぱいに写すことで印象が大きく変わる。また、大きくぼける特性を活かして、被写体を浮き上がらせて表現できる。等倍撮影では被写界深度が浅く、ピント合わせがシビアになるため、三脚を使うとよい。



M.ZUIKO DIGITAL ED
30mm F3.5 Macro
(35mm判換算/60mm相当)

- 小さなものを大きく撮影することができる。
- きれいなぼけになるため、被写体を浮き上がらせて写すことができる。
- 被写界深度が浅くピント合わせが難しいときは、三脚があると便利。

心癒されるペットの様子 を写真に残そう

KEYWORD 水平アングル/AFイルミネーター/シャッター優先撮影/C-AF/単焦点レンズ

犬や猫など、自分よりも低い位置にいる被写体を撮影するときにはアングル(→P25)が重要だ。自分目線のアングルでばかり撮影していると、床や地面が写り込み、どこで撮影しても代わり映えない写真になってしまう。ペットの目線に合わせたアングルで撮影することで、表情が伝わりやすくなるだけでなく、その場の状況も伝わりやすい写真になる。



水平アングルでペットの表情を撮る

水平アングルなど、いつもと違った目線で撮影するときには、**可動式モニター**を利用すると無理のない姿勢で撮影できる。また、暗いシーンではAFイルミネーターをOffに設定し(→P154)、被写体を光で驚かさないようにしよう。

カメラ設定	撮影モード	A(絞り優先)	絞り	F1.8	シャッター速度	1/60秒
	露出補正	-0.7	ISO感度	400	WB	オート
	使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL 25mm F1.8		焦点距離	25mm	

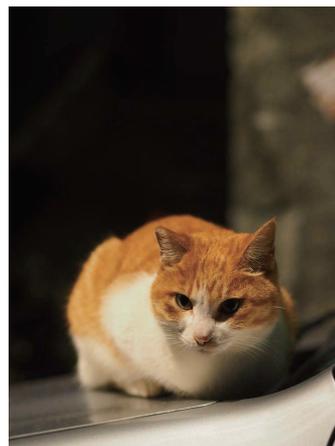
1 走ってくる犬の動きをとらえる

愛犬が生き生きと走っている姿を写真に残したいなら、**シャッター優先撮影(S)**に設定しよう。シャッター速度を1/1000秒よりも速くし、**C-AF**に設定すれば、犬が動き回っていてもぶれにくく、ピントが合いやすくなる。あわせて連写(→P61)の設定もしておくとうい。



撮影モード S(シャッター優先)
絞り F6.3
シャッター速度 1/2000秒
露出補正 ±0
ISO感度 500
WB 晴天
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL
ED 40-150mm F4.0-5.6 R
焦点距離 150mm

2 単焦点レンズで暗いところにいる猫を撮る



薄暗いところで動く被写体を撮影するときには、ズームレンズよりも**単焦点レンズ**(→P106)が向いている。単焦点レンズはF値を小さくできるため、その分シャッター速度を速くできるのがメリットだ。シャッター優先(S)で撮影し、写真が暗く写ってしまう場合はISO感度を高くして調整するとよい。

撮影モード A(絞り優先)
絞り F1.8
シャッター速度 1/100秒
露出補正 -0.3
ISO感度 1600
WB オート
使用レンズ M.ZUIKO DIGITAL 45mm F1.8
焦点距離 45mm

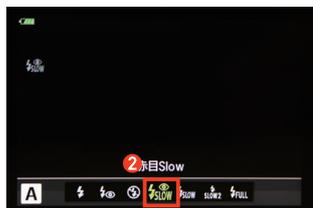
- まとめ
- 水平アングルでペットと同じ目線から撮影する。
 - 動いている被写体を撮るときはシャッター速度を上げ、C-AFでピントを合わせ続ける。
 - 暗いところで動く被写体を撮るときはF値の小さい単焦点レンズがおすすめ。

フラッシュの発光方法を調整したい

KEYWORD フラッシュ発光モード / 赤目軽減

内蔵フラッシュを使うと暗い撮影シーンでもかたんに明るく撮影できる。フラッシュは発光量調整(→P32)以外にも、発光方法を変えることができる。フラッシュを使うことで人の目が赤く写ってしまったり、背景が暗く写ってしまったりしたときは、フラッシュ発光モードを変更してみよう。

Answer フラッシュ発光モードを変更する



▷(☑ボタン) ①を押す。◀▶でフラッシュ発光モード②を選択し、OKボタンで決定する。ここでは[赤目Slow]を選んだ。

種類	説明
⚡ 発光	フラッシュを発光させる。
👁️ 赤目軽減	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくする。最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかる。撮影状況によっては効果が出ないことがある。
🚫 発光禁止	フラッシュを発光させない。
👁️📶 赤目Slow	スローシンクロ(先幕シンクロ)と赤目軽減発光を併用する。
📶📶 Slow	スローシンクロ(先幕シンクロ)。シャッター速度が遅くなり、背景まで明るく撮れる。S、Mモードでは選択できない。
📶📶 Slow2	スローシンクロ(後幕シンクロ)。被写体の移動の軌跡や光跡が移動方向の後ろに流れるように写る。
📶📶📶 マニュアル発光量変更	発光量を自分で設定する。[FULL]を基準にその何分の1かを指定する。INFOボタンを押して、◀▶で発光量を選ぶ。

※先幕シンクロ…シャッターが開くと同時に発光する。

※後幕シンクロ…シャッターが閉じる直前に発光する。

被写体を水平／垂直に撮影したい

KEYWORD 水準器表示 / 表示罫線選択 / 黄金分割

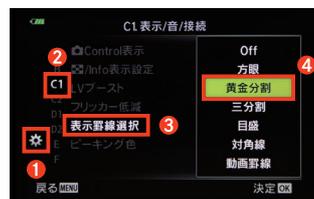
ビルを撮るときには垂直な線が垂直になるように、海を撮るときには水平線が水平になるように撮ることが大切。水準器表示と罫線表示を利用すれば、被写体が傾いて写るのを防ぐことができる。撮影時にモニターに表示できる罫線の種類は5種類あるので、構図や被写体に合わせて選ぼう。

Answer 水準器表示と表示罫線選択で罫線を表示



水準器の表示

INFOボタンを押して表示を切り換え、水準器表示(→P21)にする。画面右側にカメラの垂直①(上下の傾き)、下側に水平②(左右の傾き)の指標が表示される。傾いている方向に白の目盛りが表示され、傾きがなくなると緑の表示になる。



罫線の表示

メニューの[✳️カスタムメニュー]①-[C1.表示/音/接続]②から[表示罫線選択]③を選びOKボタンを押す。△▽で罫線の種類④を選びOKボタンを押す。



撮影画面に戻ると、選択した罫線がモニターに表示される。左の例は[黄金分割]。罫線はモニター上の表示のため、画像には写らない。

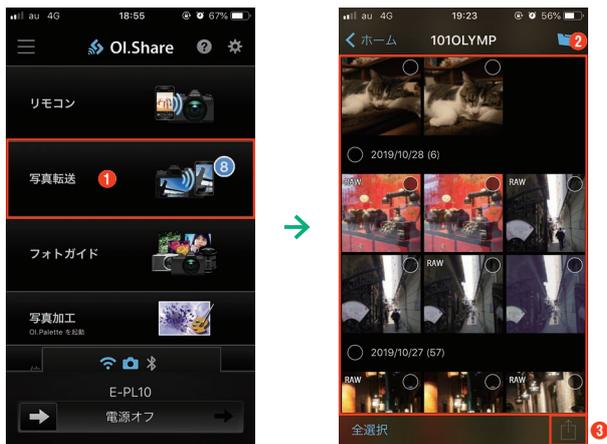
撮影した写真をスマートフォンに転送しよう

KEYWORD OI.Share / シェア予約

Wi-Fi/Bluetooth機能を使えば、E-PL10で撮った写真をいつでもスマートフォンやタブレットに転送できる。友人と出かけたときに撮った写真をシェアしたり、SNSにアップロードしたりするのめんどくさくなくなる転送機能を使いこなそう。

1 カメラで撮影した写真を転送する

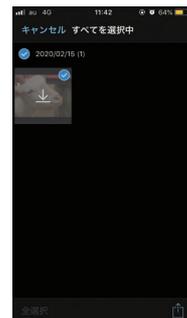
OI.Shareを使えば、カメラで撮影した画像を自分のスマートフォンに転送したり、SNSにアップロードしたりすることができる。ただし、RAWは転送できないので、あらかじめカメラ内でRAW編集(→P162)でJPEGに保存しておこう。



スマートフォンでOI.Shareを起動して、E-PL10と接続したら、[写真転送] ①をタップする。カメラ内に保存された画像が一覧となって表示される②。スマートフォンで転送するには、写真の右上の○をタップして選び、右下に表示されるをタップする③。[取り込み] と [シェア] の選択画面が表示されるので、実行したいほうをタップする。

2 写真を自動的に転送する

[シェア予約] を使うと、カメラの電源を切った後、予約した画像が自動的にスマートフォンに転送される。あらかじめスマートフォンとカメラの無線接続を設定し、[Wi-Fi/Bluetooth] と [バックグラウンド通信] を [On] にしておく(→P169)。スマートフォンはBluetoothを起動しておく。

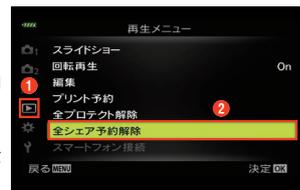


再生モードでOKボタンを押し、[シェア予約] を選択する。[シェア予約] 画面で△▽を押すと、画像右上に[シェア予約]されたことを示すマークがつく①。事前にムービーボタン②に[シェア予約]機能を割り当てておけば(→P156)、インデックス再生で複数の画像を同時に予約することもできる。

カメラの電源を切る。約1分後、OI.Shareの[写真転送]をタップすると、シェア予約した画像が転送されている。

■シェア予約を解除する

シェア予約を解除するには、再生モードで解除したい画像を表示して、予約時と同じように[シェア予約]画面で△▽を押して解除する。一括で解除したいときは、メニューの[再生メニュー] ① - [全シェア予約解除] ②でOKボタンを押し、[実行] を選択してOKボタンを押す。



ONE POINT iOS使用時の注意

スマートフォンがiOSの場合、あらかじめスマートフォンでOI.Shareを起動しておく必要がある。また、Wi-Fiルーターなど、すでに他のアクセスポイントに接続しているときは自動で接続されない。そのようなときはスマートフォンのWi-Fi設定を開き、ネットワークの設定から接続するカメラの機種名を選択する。

- まとめ ■ カメラのWi-Fi機能を使えば画像の転送とシェアがかんたんにできる。
- カメラの電源がオフでも画像を転送できる。